

◎ 民衆の成長と幕府のおとろえ

産業の発達→→農民の生活の向上



- ・新しく武士になる者 ()
- ・商業を営んで、富をたくわえる者
- ・有力な農民の元で働いていた→→土地を開いて自立
- ・近畿周辺では、荘園の管理者をおかず
→→有力な農民を中心に村を運営
[] という自治組織を作る。
 - ・神社等で () を開く。
 - 代表者の選出
 - 祭りの運営
 - 森林、草刈り場の利用
 - かんがい用水の配分
等を相談で決めた。
 - ・村のきまり () を決め、
違反者は、村から追放
罰金を取る 等をした。

農民の自治が進む→→荘園領主や () への抵抗を強める。



広い範囲の農民が同時に立ち上がり、幕府にも要求を出す

1428年 正長の []

近江の馬借や京都周辺の村々の農民が京都に入り、幕府に [] を要求。酒屋・土倉を襲い、借金証文を焼き捨てた。

1441年 6代将軍 () が有力守護 (氏) に暗殺される。

その直後におきた 嘉吉の [] では、幕府に徳政を出させるにいたった。

土一揆

公家などの上層階級では、下級武士や民衆を卑しんで「土民」と呼んだ。その「土民」一揆の略称が土一揆である。

土一揆をおこした民衆には、農民の他に馬借など商業に従事する者もいた。土一揆が畿内で多いことからわかるように、交通の要所に馬借達は集まり、当然、そこには各種産業が集まり成長していた。彼らは徳政を求めて、土倉・酒屋を襲い、借金証文を焼き捨てたりした。

嘉吉の土一揆

1441年、将軍義教が播磨守護・赤松満祐に暗殺された。幕府の動揺は大きく、赤松討伐のため、山名軍が京を出た間隙について徳政を要求する土一揆がおきた。一揆軍は京都諸口を封鎖、堂舎仏閣に立てこもり、徳政を出さねば焼き払うと威嚇。幕府は、土民のみを対象とした徳政を提示するが拒否される。次に山城国一国全体を対象とする徳政を提示し、鎮圧化しかけるが、諸口は封鎖されたままで一揆軍は、次に全国国民を対象とした徳政を要求し、幕府はこれを認めた。これが嘉吉の土一揆だ。

正長の土一揆でも、嘉吉の土一揆以降でも、全国一律の徳政など幕府は出したことがない。土民が自らの利益のみ考えていたのなら、最初の土民対象徳政で足りる。それが全国にまで要求を広げたのはなぜであろうか。当時、土倉などの一番の得意先は公家武家衆で、土民の損害は土民のみの徳政では小さいものであり、全国民に広げることで土倉に大損害を与え、土倉衆と結束していた管領細川氏追い落としをねらった政治的戦略があったからである。